

開催した講座などの様子をお伝えします

にぎわい交流館 かわら版

電話 0561-75-6650

メール nigiwai@me.ccnw.ne.jp

ウェブサイト <http://shimin-kouryu.net>



協働は「目的・目標の共有」から

8/29 第 5 回 日進まちづくりゼミでワークショップ

にぎわい交流館は 8 月 29 日（水）夜に、昨年度にスタートした「日進まちづくりゼミ」の第 5 回を開催。市民活動をしている人や市職員など 15 名が参加しました。

日進まちづくりゼミは、地域課題の解決にかかわる人たちが、まちづくりについて共に行動していくための、出会いと学びと対話の場として開催しています。

平成 30 年度の 1 回目で、「市民のイベントから『協働』を考える」と題してワークショップを行いました。「あいち協働ルールブック 2004」に書かれている、9 つの「協働の原則」を参考にして、NPO と行政の協働で実施されるイベントについて考えや体験を話し合いました。

グループワークでは、たくさんの「できていなかったこと」といくつかの「できていたこと」が出てきました。できることを一つひとつ増やしていくための原点として、協働にかかわる人達が今後もルールブックを活用していけるとよいと思います。

【裏面へ続く】

どんなことが「協働の原則」とされている？

「あいち協働ルールブック 2004」では、NPO と行政が協働する上での原則を 9 項目にまとめています。

NPO と行政とでは、意思決定のプロセスや重要視する価値観に違いがあることから、互いを尊重し合い、信頼関係を築いていくことが求められています。

協働の原則（あいち協働ルールブック 2004 より）

行政と NPO 共通の姿勢	<ul style="list-style-type: none">○目的・目標の共有○相互理解○対等の関係○透明性の確保○評価の実施
行政の姿勢	<ul style="list-style-type: none">○組織横断的な連絡調整○NPO に対する適切な理解と配慮
NPO の姿勢	<ul style="list-style-type: none">○守秘義務○公の資金を使う自覚と責任

グループワーク、こんな気づきを共有しました



グループワークでは、7月に開催した「にしんわいわいフェスティバル」を主な題材として、実行委員・出展団体・行政といった立場を踏まえて気づいたことをふせんに書き、3つのテーブルを回って出し合いました。

「行政と NPO 共通の姿勢」のテーブルでは、
○目的や目標が共有できていない
○相互に評価し、課題を次回に生かしているか

○対等な関係でなく、NPO 側が行政からの指示待ち状態だった

○対話・交流する機会が少ない（NPO 同士も「できた」「できなかった」あり）

といったことが「できていなかった」として挙げられました。「できていた」こととしては「設営作業に前回の反省を活かし、みんなで協力してできた」「出来るだけ多くの団体が出られるよう対応した」などが出ました。

また他のテーブルでは、「事業予算が NPO 側からは見えず、自主性や責任感を持ちづらい」「出展団体が自分の言葉でイベントの内容や意義を語るができない」といった発言があったほか、立場を気にして自由に話せなかった、参加しづらかったという人もいました。

これからの協働事業にどう活かすか

わいわいフェスティバルでは、「市民が自らづくり、継続することができるイベント」にしていくため、目的や運営のあり方を探る検討会議が9月からスタートしています。

ワークショップで見える化された課題を、一つひとつできることに変えていく、その改善のプロセスを意識して取り組んで行けるとよいと思います。【了】

